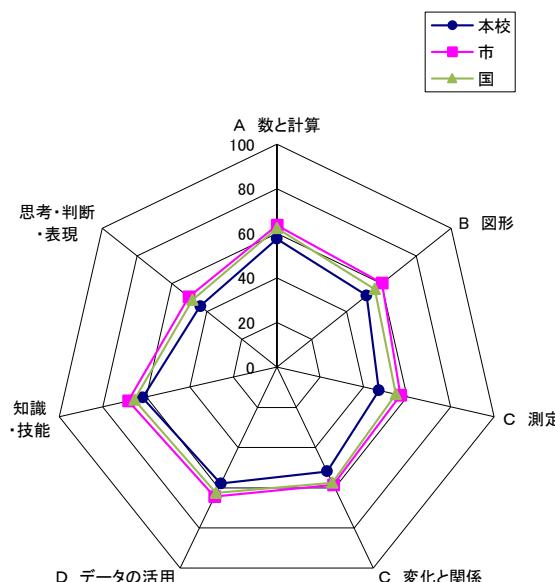


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.5	63.6	62.3
	B 図形	51.5	60.4	56.2
	C 測定	47.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	51.9	58.6	57.5
	D データの活用	57.9	64.4	62.6
観点	知識・技能	61.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	43.9	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの	
		今後の指導の重点	
A 数と計算	<p>平均正答率は57.5%で全国平均と比べ5ポイント低い。 ○基礎的な計算問題では全国平均に近い正答率であった。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題の正答率では、全国平均より10ポイント以上低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線や図を活用し、数の意味について理解を深めることで、式の意味や見通しをもって計算に取り組めるようにする。 ・普段の授業の中で問題の文脈に沿って図などに表し、数量関係を捉えられるようにしていくことを意識的に取り入れていく。 	
B 図形	<p>平均正答率は51.7%で全国平均と比べ5ポイント低い。 ○角の大きさについての理解は全国平均と比べ同程度であった。</p> <p>●图形の性質について理解を問う問題では、特に台形についての理解を問う問題で8ポイント全国平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・图形を構成する要素に着目し、辺や角の数や形、图形の特徴を捉えることが必要である。ICTツールを活用した作図・構成活動を通じて、图形の性質や構造を視覚的に捉える力を養っていく。 	
C 測定	<p>平均正答率は47.0%で全国平均と比べ8ポイント低い。</p> <p>●問題を解決するために必要な数量を見出す問題の平均正答率は全国平均と比べ、11ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位の表す意味や数量と数量の関係性を授業中の中で言葉や式で表現する場を多く設け、繰り返し指導していく。 	
C 変化と関係	<p>平均正答率は51.9%で全国平均と比べ6ポイント低い。 ○増量後、増量前など、基準量・比較量についての問題では、全国平均をやや上回った。</p> <p>●問題文の中から必要な数量を見出す問題は全国平均と比べて6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「割合」「比較量」「基準量」の関係を図などで繰り返し扱い、表現することで言葉と数量を結びつける力を養う。 	
D データの活用	<p>平均正答率は57.9%で全国平均と比べ4ポイント低い。 ○目的に応じて、適切なグラフを選択し増減を判断した上で理由を言葉や数で記述する問題では、全国平均に比べ、2ポイント上回った。</p> <p>●簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶ問題では、全国平均と比べ7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表・グラフの読み取りに日常的に取り組み、言語化して説明する活動を取り入れる。実生活と関連付けた課題設定も有効だと考えられるため取り入れていく。 	